

バレーボールのV・プレミアリーグ豊田合成トレフェルサに所属し、レギュラーメンバーとして活躍している近裕崇さんが、今シーズン、リーグでのアタック決定率No.1に輝き、日本バレーボール協会から表彰されました。

ミドルブロッカーを務める近さんは、今シーズン316打数184得点(58・2%)という高い決定率を残し、全日本で活躍する選手を抑えての快挙を成し遂げ、また、1セットあたりのブロック決定

**アタック決定率No.1  
V・プレミアリーグで大活躍！  
近裕崇さん（大島出身）**



本数やサーブ効果率でもトップ10に名を連ねるなどチームの大黒柱として活躍。

近さんは「スパイク賞を受賞できたことは嬉しいですが、チームが8チーム中5位という成績に終わってしまったことがとても悔しいです。来シーズンは個人としてもチームとしても、今期以上の成績を残せるよう頑張ります。そして、いずれは故郷関川村に何らかの形で恩返しできれば」と話していました。これから活躍が楽しみです。



**大きな期待を膨らませ・・・**

**入園・入学の春**



4月4日、村内保育園で入園式が行われ、28人の子どもたちが新たに入園しました。

下関保育園では、21人の新入園児が元気に初登園。名前が呼ばれると、一人ひとり元気よく返事をしました。

年長児から「保育園には楽しいことがいっぱいあります。おやつもあります。一緒に散歩に行きましょう」と歓迎された新入園児。元気いっぱい楽しい保育園生活が始まっています。



関川小学校では4月8日に入学式が行われ、今年41人の児童が入学しました。在校生から温かい拍手で迎えられ、少し緊張しながら入場。

6年生の代表児童から「みなさんが入学するのを楽しみにしていました。学校生活では楽しいことがたくさんあります。分からないことがあったらいつでも私たちに聞いてください」と歓迎された新一年生。先輩や友達に囲まれ、楽しく学校生活を送っています。

また、この日は関川中学校でも入学式が行われ、47人が新たに入学しました。

式では、生徒会長の渡辺樹さん(3年・南赤谷)が「先輩方が作り上げてきた関川中の伝統を進化させ、新たな伝統を作り上げていきましょう」と歓迎し、新入生を代表して長谷川康太さん(下関)が「関川中の先輩方は優しいと聞いているので先輩方を見習って立派な生徒になりたい」と力強く誓いの言葉を述べました。





## 新体制で活動スタート

～ 消防団辞令交付式 ～

4月7日、ふれあいど～むを会場に、村消防団の辞令交付式が行われ、幹部・新任団員など約80人が参加しました。

式では、平田均団長が新幹部2人と11人の新任団員に辞令を交付。平田団長は挨拶の中で「消防団員として地域のために活躍することを期待します」と新任団員を激励しました。

式終了後には、規律訓練や車載無線交信訓練が行われたほか、ポンプ操法講習会が行われ、参加した団員は消防署員の説明に耳を傾けていました。

**春季消防演習及びポンプ操法競技会は  
5月19日(日)  
会場は「ふれあいど～む」  
選手へ熱い声援をお願いします！**



## 歩いて健康づくり

～ 第6回 村民健康ウォーキング ～

4月20日、歩くきっかけづくりとところと体の健康づくりを目的とした村民健康ウォーキングが開催され、村内外から約60人が参加しました。これは村の主催で行われたもので、今年で4年目。

この日歩いたのは、2008年に県の健康ウォーキングロードに認定された全長5キロの「歩いて健康！大したもん蛇コース」。ふれあいど～むを出発した参加者はそれぞれのペースで景色や会話を楽しみながら心地よい汗を流していました。

高橋忠夫さん(下関)は「今日は友人に誘われて参加しました。14年くらい一人でウォーキングをしてきましたが、こうやってみんなで歩くとリラックスできて、とても気持ち良かったです。これを機に、村民健康ウォーキングには毎回参加しようと思います」と話していました。

## 関川村土地改良区 全国土地改良功労者表彰で 金章を受賞！



▲村土地改良区 新野信一理事長

このたび開催された「第54回全国土地改良功労者表彰」で、関川村土地改良区が優良土地改良区として見事金章を受賞しました。

これは、組合員一同が一致団結して管理運営の向上に努め、農業生産基盤の整備開発に寄与したとして表彰されたもので、県内では唯一の金章受賞団体となりました。

過去にも銀章と銅章を受賞したことがある村土地改良区は、女川地区における土地改良区への加入促進や玉郷立地区のほか整備事業、県営ため

池等整備事業などに取り組み、村の農業の発展に大きく貢献。今回の受賞を受け、村土地改良区の「新野信一理事長(南赤谷)」は「関川村は中山間地域で兼業農家が多く、農家数が減少してきている中で受賞できたことは大変光栄です。これを機に現在計画中の女川地区ほ場整備事業促進への弾みとして、農地集積の向上を図りながら、大型機械化による効率的な経営につながるよう、前向きな姿勢で取り組んでいきたい」と受賞を喜んでいました。